

学 会 報 告

第7回現代韓国朝鮮学会大会

樋口 倫生

2006年11月18日～19日に、第7回の現代韓国朝鮮学会大会が、静岡県立大学で開催された。現代韓国朝鮮学会については、農業経済を専攻する研究者にあまり馴染みがないと思われるので、ここで若干説明を加えておく。この学会は、世界各国との交流が深まるなか、朝鮮半島の政治動向に対する社会的な関心が一層高まっており、当該地域の諸問題を歴史的かつ社会科学的な思考に基づいて解明した研究成果を社会的要請に応えて活用するという趣旨で2000年に設立された。研究成果は、学会誌と学会大会で発表されており、HP (<http://www.meijigakuin.ac.jp/~ackj/front/>) でその内容の一端を窺うことができる。今大会でも多くの成果が報告された。

大会初日の18日は、「朝鮮半島問題とマスメディア」というテーマでのパネルディスカッションであった。司会は静岡県立大学平岩俊司教授がつとめ、尚美学園大学鐸木昌之教授、水野孝昭朝日新聞ニューヨーク支局長、山岡邦彦読売新聞論説委員、塚本壮一氏(NHK中国総局)がパネリストとなり、熱を帯びた討論が行われた。

翌19日には午前中に二つの会場に分かれて、自由論題による個別報告があった。第1セッションでは、横浜市立大学倉持和雄教授を司会として、「京城紡織株式会社の経営に見られる人間関係の機能」や「持株会社制度の導入と韓国財閥」といった報告がA会場で行われた。B会場では、「中選挙区制における候補者擁立戦略 - 5・31地方選挙の検証」、「法による“過去克服”の限界 - “疑問死第一号”崔鍾吉事件を中心に-」などが、神戸大学大西裕教授の司会のもとで報告された。また第2セッション(A会場)では、「『8.3

措置』は単なる私債撲滅措置だったのか - 危機対策という観点から『8.3措置』を再考する-」、「1970年代初現代グループの造船所建設と川崎重工業」といった発表であった。

今大会で小生は、第2セッションのB会場にて討論者の役割を仰せつかった。京都産業大学後藤富士男教授が司会で、田村善弘氏(九州大学大学院)が「日韓における輸入食品の安全性確保の現状と課題」という題目で報告した。近年、日韓両国において、海外からの食料輸入が急増しており、それに伴って食品の安全性問題も発生しているということを問題の背景としており、輸入食品の安全性について、危害要因のある食品の流入を防ぐ輸入食品の検査制度が重要であるとした上で、水際での検査体制に焦点をあてて分析を行っている。また日本と比較的類似した韓国をとりあげることで、日本、韓国両国の検査体制の差異と課題を明確にし、輸入食品の安全性確保の課題をさぐることをも併せて行っている。結論部分では、中国からの輸入が今後、増加することが指摘されており、日韓両国の課題としてそのような急増する輸入に対して、従来からの検査制度を効率的に運用する一方で、輸出国である中国と協力し、自国へ輸入する食品の安全性向上などが促進される対策を行わなければならないとしている。小生は、日韓における輸入食品の安全性確保の課題は、中国を含めた東アジア三カ国の課題ともいえ、輸入国としての日本、韓国、輸出国である中国、この三カ国の協力のもとで、食品の安全性を確保する必要があることがこの報告には示唆されているとコメントした。

個別報告を終えた午後からは、静岡県立大学小針進教授を司会としたシンポジウムが開かれ、「韓流現象をどうとらえるべきか」に関して活発な意見交換が行われた。パネリストは、京都大学小倉紀蔵教授、野崎宗利氏(フジテレビジョン)、静岡大学朴根好教授、朴正淑氏(キャスター)、静岡県立大学渡邊聡教授であった。特に、朴正淑氏による報告は、韓国の立場からみた韓流に関する見解であり、誠に興味深い内容であった。

なお余談であるが、大会懇親会で、静岡名産のしらすとさくらえびを堪能させてもらった。